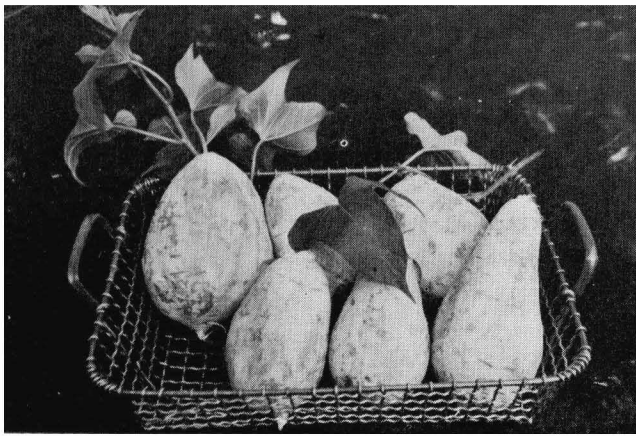


琉球大学学術リポジトリ

甘藷の伝来と奨励品種

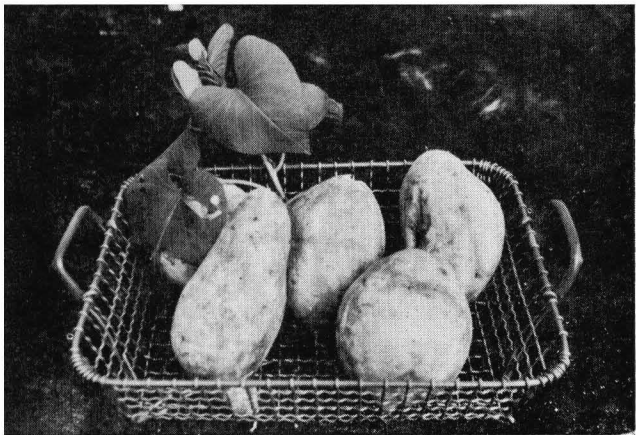
メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20510



ナン
ゴ
ク



ヨ
ギ
ム
ラ
サ
キ



ア
キ
ホ
コ
リ



農
林
17
号

さ つ ま い も
甘 藷

甘 藷 の 伝 来

甘藷の原産地は中央アメリカといわれている。コロンブスのアメリカ発見当時（1514）既に原住民によって栽培されていた。スペイン人によってフィリピンに伝えられ、中国人陳振竜は明の万暦年間（1594）ルソン島から福建省に伝えた。琉球には慶長10年（1605）進貢船の事務長であった野国総管が福建省から三品種の甘藷を鉢植にして持来したのに始っている。総管は郷里の北谷間切野国部落で試植し、野里、砂辺の隣部落に栽培を拡めた。儀間真常が甘藷の事を伝聞し藷苗の分譲を請うて来たので総管は彼に栽培法を教えて苗を分ち与えた。儀間真常は尚寧王の時代に37才で家督をつぎ、真和志間切儀間村の地頭になったが昇進して親方になった。その後尚豊王3年、（1623）琉球に始めて製糖法を拡めた人であるが、真常は総管から甘藷苗を入手したのでその栽培法を研究し増殖を図った。数年後大飢饉があって餓死した者が多かったが甘藷のある所は餓死を免れた。真常は王府に建言し大増殖を計ったので伝来後15年にして国中に普及した。それで琉球の食糧事情は飛躍的に改善され住民は餓死地獄から救われることになった。

甘 藷 の 奨 励 品 種

1. 品 種 名

ナンゴク、ヨギムラサキ、アキホコリ、農林17号。

何れの品種も1961年1月23日、品種査定委員会に於て奨励品種と決定された。

2. 特性表

項目	頂葉色	葉色	葉柄色	皮色	肉色
品種名					
ナンゴク	黄緑	淡緑	緑	淡紫	白
ヨギムラサキ	緑	濃緑	紫	淡紅	紫
アキホコリ	紫かつ	緑	淡紫	ク	白
農林17号	暗かつ	緑	ク	紅	淡黄

3. 試験成績

第1表 夏植(3ヶ年平均) 1957-1959年 琉球農試場
(10・当 単位kg)

項目	莖重	諸重	諸重濃粉 指数含有%	濃粉量 指数
品種名				
沖縄百号	2,204.9	3,281.8	100	19.14
ナンゴク	3,624.3	4,221.0	128.6	17.89
ヨギムラサキ	2,411.8	4,434.8	135.1	16.99
アキホコリ	2,287.6	4,251.2	129.5	16.27
農林17号	1,368.3	3,415.8	104.1	26.37

第2表 秋植(3ヶ年平均) 1957-1959琉球農試場
(10・当 単位kg)

項目	莖重	諸重	諸重濃粉 指数含有%	濃粉量 指数
品種名				
沖縄百号	1,500.9	2,846.5	100	19.14
ナンゴク	2,130.3	3,760.0	132.1	17.89
ヨギムラサキ	1,826.3	4,006.6	140.8	16.99
アキホコリ	1,766.5	4,298.2	151.0	16.27
農林17号	1,231.3	3,159.1	111.0	26.34

第3表 夏植(3ヶ年平均) 琉球農試コザ支場
(10・当 単位kg)

項目	莖重	諸重	病虫害 重量	諸重濃粉 指数	濃粉量 指数
品種名					
沖縄百号	1,672	2,596.7	378.9	100	100
ナンゴク	2,359	3,035.6	256.0	116.9	141.1
ヨギムラサキ	1,439	3,456.9	933.2	133.1	86.1
アキホコリ	1,332	2,877.5	375.5	110.8	79.7
農林17号	1,023	3,198.8	445.7	123.2	61.1

第4表 秋植(2ヶ年平均) 琉球農試コザ支場
(10・当 単位kg)

項目	莖重	諸重	病虫害 重量	諸重濃粉 指数	濃粉量 指数
品種名					
沖縄百号	2,370	3,426.7	71.2	100	100
ナンゴク	3,904	3,965.9	3.6	115.7	164.7
ヨギムラサキ	2,061	4,262.2	215.8	124.4	87.0
アキホコリ	2,477	3,731.2	39.6	108.9	104.5
農林17号	2,000	3,969.7	33.3	115.8	84.4

4. 選用品種の特性と試験成績の考察

① ナンゴク

夏植及び秋植に適している。ジャーガル及びマーチの何れにも諸重と蔓重の収量が高い。蔓の繁茂が大であるので窒素質肥料を多く施すと蔓ばけのおそれがある。又蔓根諸が他品種よりも多いので蔓返しを行う必要がある

成熟調査の結果は沖縄百号が5ヶ月目の収量が最高であるのに対し本品種は7ヶ月目に最高収量を示し晩生型の品種。蔓重指数が特に高い。澱粉含量は沖縄百号より低い単位面積当では高い。病虫害に対する抵抗性は夏植で沖縄百号程度、秋植では3ヶ年皆無。本品種は莖硬が長く深入りするのでアリモドキの被害が少いようである。諸重、蔓重とも収量が高いが食味は劣るので家畜飼料、特にサイレーチ用として最有望品種である。

② ヨギムラサキ

ジャーガルの琉球農試で夏、秋植とも4,000kg以上の諸重を示し、マーチのコザ支場で両期作とも最高収量を示して早生型の多収品種である。蔓重はマーチ地帯よりジャーガル地帯に於て高い。澱粉含有率は沖縄百号より劣るが単位面積に於ては優っている。病虫害には弱いので植付前にアルドリンかヘプタクロールを散布すべきである。

③ アキホコリ

夏、秋植とも収量が高いが諸重、蔓重とも秋植の方が率が高いので秋植用の品種である。

葉面積が他品種より大で乾燥には幾分弱くジャーガルの肥沃地向きである。採苗数が劣るので苗床面積を増す必要がある。食味は沖縄百号より落ちる。飼料用特に秋植品種として最適と思われる。

④ 農林17号

両期作向きの品種である。土壌別では幾分マーチに適しているようである。茎葉の繁茂が他品種に劣るので窒素質肥料の増施を要する。又野菜の被害も多い傾向にあるので注意を要する。本品種は諸の揃いも良く澱粉含量が他の品種より遙かに高いし、食味も良好であるので澱粉用及び食用として栽培するとよい。(新垣真保)